医学教育分野別評価　群馬大学医学部医学科　年次報告書
令和元年度

評価受審年度　　2017（平成 29）年

１．使命と学習成果

今後改善が見込まれる項目

１．使命と学修成果	1.1　使命
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医学部医学科の使命の中で、「国際的な健康障害」や「不平等な不正による健康への影響」に関する記載の追記が望まれる。	
現在の状況	
定期的に、アウトカムや教育ポリシーの見直しを行う予定であるが、改訂の機会はまだない。	
今後の計画	
時代の変化や社会からの要請に応じて、使命の見直しを行う PDCA サイクルを構築する。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

１．使命と学修成果	1.3　学修成果
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
医学部医学科のアウトカムの中に、「卒前教育」と「卒後研修」との関連を明示すべきである。	
改善状況	
定期的に、アウトカムや教育ポリシーの見直しを行う予定であるが、改訂の機会はまだない。	
今後の計画	
時代の変化や社会、地域からの要請に応じて、医学科教育と卒後研修とのつながりについて適切な学習成果を検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

１．使命と学修成果	1.3　学修成果
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、そして家族を尊重し適切な行動をとることを確実に修得させるべきである。	

改善状況
カリキュラム検討委員会が中心となり、学習成果の達成についての評価について検討を進め、学生の行動面に焦点を当てた評価方法の開発にも取り組んでいる。
今後の計画
引き続き、学生同士、教員、医療従事者、患者、そして家族を尊重し適切な行動をとることを学生が確実に修得できるような学習成果の達成について検討していく。
改善状況を示す根拠資料
資料1-1　2019年度カリキュラム検討委員会議事次第

１．使命と学修成果	**1.3　学修成果**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
国際保健に関する学修成果について検討することが望まれる。ここで求められる「国際保健」の内容は、「1.1 使命の注釈：『国際的健康、医療の観点』は、国際的な健康障害の認識、不平等や不正による健康への影響などの認識を含む」である。	
現在の状況	
カリキュラム検討委員会にて、現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認を行った。令和 2 年度から導入予定の新カリキュラムにおいても国際保健に関する学修の機会を提供し、その学修成果についても検討を進める。	
今後の計画	
引き続き、国際保健に関する学修成果について検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1-2　カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの照合調査依頼	

１．使命と学修成果	**1.4　使命と成果策定への参画**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
「使命と目標とする学修成果」の策定に、「他の医療職、患者、公共並びに地域医療の代表者」からの意見を求めるべきである。	
現在の状況	
群馬大学大学院医学系研究科附属医学教育センター及び群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センターが連携し、卒前・卒後を通じたシームレスな教育システムの構築と支援体制の確立を行っている。群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センターでは、公益社団法人群馬県医師会、一般社団法人群馬県病院協会、公益社団法人群馬県歯科医師会、一般社団法人群馬県薬剤師会、公益社団法人群馬県看護協会、一般社団法人群馬県臨床検査技師会、一般社団法人群馬県診療放射線技師会等が参画するぐんま地域医療会議において公共並びに地域医療の代表者等のニーズを収集している。	
今後の計画	
群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センターにおいて、継続して公共	

並びに地域医療等のニーズを収集していく。
現在の状況を示す根拠資料
資料1-3　ぐんま地域医療会議と地域医療研究・教育センターの体制図 資料1-4　ぐんま地域医療会議会則 資料1-5　ぐんま地域医療会議構成員名簿

２．教育プログラム

改善した項目

２．教育プログラム	**2.1　プログラムの構成**
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
シラバスや授業スケジュールを、学生、教職員が理解しやすい環境を構築すべきである。	
改善状況	
平成 30 年度より、既存の教務システムや Moodle を活用し、履修している授業のスケジュールを学生が可視化できるようにした。令和 2 年度入学生から導入される新カリキュラムについて、学生・教員が教育プログラムの全容を把握しやすいよう、カリキュラムマップを刷新し、FD で周知を図った。	
今後の計画	
令和 2 年度入学生から導入される新カリキュラムについて、ウェブサイト等での周知を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-1　カリキュラムマップ 資料2-2　群馬大学 Moodleシステム入門テキスト 資料2-8　2019年度医学教育教授法FD次第	

２．教育プログラム	**2.1　プログラムの構成**
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
自己点検評価報告書72ページDに「学生が自分の学修過程に責任を持って主体的に取り組むことのできるカリキュラムや学修方法を取り入れるための検討を開始する」と記載されているが、アクティブラーニングや学修意欲を刺激する学修方法の開発を早急に行うべきである。	
改善状況	
以前よりアクティブラーニングを実施している科目に加えて 4 年次科目「チームスキル演習」において、医療安全についての知識と技能を高めるため、少人数班での討議及びプロジェクト型学修を取り入れた。 令和 2 年度より導入予定の新カリキュラムのため、カリキュラム検討委員会においてアクティブラーニングや学修意欲を刺激する学修方法の開発を進めている。	
今後の計画	
令和 2 年度入学生から導入予定の新カリキュラムでは、「学びのリテラシー(1)」や新規開講科目を中心に能動的学修の機会の拡充が予定されている。	

現行カリキュラム内でもアクティブラーニング導入の拡充と啓発を進めると共に、アクティブラーニングを意識した新カリキュラムについてカリキュラム検討委員会において検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料2-3　チームスキル演習シラバス
資料2-4　2019年度チームスキル演習資料
資料2-5　神経生理学シラバス
資料2-6　神経生理学症例掲示
資料2-7　令和元年度第７回教養教育部会議事要録
資料2-8　2019年度医学教育教授法FD次第
資料2-9　「ぐんまレジデントグランプリ2019」チラシ
資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回）

２．教育プログラム	**2.1　プログラムの構成**

質的向上のための水準　判定：適合

改善のための示唆

能動的学修の機会を増やし、課題発見・問題解決、自己主導型学修、省察的実践のための能力をさらに育てていくことが望まれる。

現在の状況

能動的学修を取り入れた科目を増やしており、FD においても能動的学修の有用性を周知し、実践を促している。授業時間外にも「シナリオトレーニング」等の能動的学修の機会を提供している。また教員はシンポジウム等に参加することにより、常に能動的学習の手法や目標の刷新を図り、カリキュラム検討委員会を通してカリキュラムに反映させる体制を整えている。

今後の計画

令和２年度入学生から導入予定の新カリキュラムでは、新設科目を中心に能動的学修の機会の拡充が予定されている。引き続き、カリキュラム検討委員会を中心に能動的学修の機会の増加を図る。

これまで主に検索の仕方やレポートの書き方を教示する科目だった「学びのリテラシー(1)」を刷新し、令和２年度より、多様な文章を読解させ、お互いの読み方を小グループ内で討議し合う作業を柱にした科目とする。この授業を担当できる元国語教諭を県内に広く求め、授業の進行・方法・評価などの細部を詰めていく。

令和 2 年度から 1～3 年次に学年進行で開講していく新規綜合科目「医系の人間学」は、講義の時間を最小限にして、ユマニチュード実技、インプロヴィゼーション（即興演劇）などの五感や身体を使う活動時間を確保し、また人間や社会に関するドキュメントを視聴した後に学生間で意見交換を重ねる時間を多くとる計画である。その具体化に向けて、基礎系教員、臨床系教員、事務職員が討議を重ねる予定である。また学外の専門家との面談や、ドラマ教育のセミナーへの参加を通して、科目開設の準備を進める。

現在の状況を示す根拠資料

資料2-8　2019年度医学教育教授法FD次第
資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回）
資料2-11　「シナリオトレーニング」ポスター
資料2-12　第38回日本医学哲学・倫理学会大会
資料2-13　ドラマティーチャー1～3級修了証

資料2-14　ユマニチュード教育打ち合わせメモ

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	**2.2　科学的方法**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
臨床実習で EBM が十分には実践されておらず、臨床実習の現場で EBM の実践を強力に推進すべきである。	
現在の状況	
平成 30 年に設置した臨床実習検討 WG、臨床実習改善 WG において、EBM の実践について現状の臨床実習の内容の見直しと、新カリキュラムにむけた枠組みの検討を行っている。	
今後の計画	
現状の EBM の実践状況を、学内診療科のみならず学外協力施設においても調査を行い、EBM を実践できる新カリキュラムを構築する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回） 資料2-15　臨床実習改善WGミーティング議事録 資料2-16　病院アンケート	

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	**2.4　行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
「現在及び将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」について社会医学系カリキュラムの中で検討することが望まれる。	
現在の状況	
行動科学・医療倫理学教育のさらなる充実と、態度系教育を図るために令和 2 年度に新設する学年縦断科目「医系の人間学」準備を行っている。当科目では、教科書からは得られない、人間と社会に関する学際的な綜合教育を行う。ドキュメント視聴後の意見交換や演劇教育の手法を活用しての共感力・想像力を育むワークや身体表現活動に重きをおき、また医学生たちの人生経験の不足を補うために臨床知・経験知を授けること、これには多くの臨床系教員が関与することに特徴がある。態度系教育ワーキンググループが 1 年～3 年次のプログラムの具体化の作業を進めている。 また、現行のカリキュラムにおいても令和元年度から 4 年次「医療の質と安全」内にて「医療政策」「医療の質改善」の授業を増やした。令和 2 年度からは研究倫理教育の充実を図るため、3 年次科目「選択基礎医学実習」の単位認定要件に一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）が提供する研究倫理教育 e ラーニング APRIN の受講を加えることを決定した。	
今後の計画	
令和 2 年度に予定されている新カリキュラムの導入を確実に進めていく。また、引き続き「現在及び将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」について、社会医学系カリキュラムに反映させることを検討してい	

く。
現在の状況を示す根拠資料
資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回） 資料2-17　医学科教務部会議事要旨（第9、13、15回） 資料2-18　2020年度「医療の質と安全」講義概要 資料2-19　2019年度「医療の質と安全」講義概要 資料2-20　新カリキュラムFD説明 資料2-21　医系の人間学概要 資料2-22　ドラマ教育覚え書き

改善した項目

２．教育プログラム	**2.5　臨床医学と技能**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
・内科・外科・産婦人科・小児科・精神科・プライマリケアなどの重要診療科での十分な臨床実習週数を確保すべきである。 ・高齢者施設だけでなく、さまざまな医療の場でチーム医療を経験する機会を設けるべきである。 ・臨床実習で「健康増進と予防医学の体験」を学べる機会を設けるべきである。 ・学修成果を達成するための診療参加型臨床実習の在り方を学内で検討すべきである。	
改善状況	
・臨床実習検討 WG において重要診療科での実習週数に関するアンケートを行い（医学科 5、6 年生、初期研修医、診療科長に対して）、新カリキュラムでの実習ローテーション方法を変更した。 ・学外施設との連絡会を開催し、重要診療科の実習週数や運営方法を含めて診療参加型臨床実習の改善のための意見交換を行っている。 ・さまざまな医療の場を経験する 4 年次科目「チームワーク実習」、疾病予防対策や地域保健などの公衆衛生を学ぶ 6 年次科目「地域保健医療論」を新カリキュラムでも配置する。 ・平成 30 年に発足した臨床実習検討 WG により、学修成果を達成するための診療参加型臨床実習の在り方を検討している。	
今後の計画	
・臨床実習検討 WG にて学外施設での施設機能、学生が実習中に経験できる診療内容について調査し、さまざまな医療の場でチーム医療を経験する機会を見直す。 ・診療参加型臨床実習を改善した新カリキュラムを決定する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 2-10　2019 年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全 9 回） 資料 2-15　臨床実習改善 WG ミーティング議事録 資料 2-16　病院アンケート 資料 2-23　2019 年度臨床実習協力施設連絡会次第 資料 2-24　2019 年度チームワーク実習報告集 資料 2-25　地域保健医療論シラバス	

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	2.5　臨床医学と技能
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・臨床医学教育カリキュラムで「現在及び、将来において社会や医療制度上必要となること」を定義し、実践することが望まれる。 ・低学年からの継続した患者接触プログラムを構築し、カリキュラム全体での患者接触プログラム期間を充分確保することが望まれる。	
現在の状況	
・令和 2 年度入学生から医師として必須となる態度や礼節を学べる機会として、1、2、3 年次科目に「医系の人間学」を導入する予定である。 ・平成 30 年度に 2 年次科目「チーム医療実習」にて介護老人保健施設、介護老人福祉施設等における患者とふれ合うプログラムを構築し、新カリキュラムでも継続して行っている。	
今後の計画	
・「現在及び、将来において社会や医療制度上必要となること」を科目ごとではなく学部として定義し、カリキュラムに反映させる。 ・低学年からの継続した患者とふれ合うプログラムを評価し、継続して改善を行っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 2-10　2019 年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全 9 回） 資料 2-21　医系の人間学概要 資料 2-26　チーム医療実習シラバス	

改善した項目

２．教育プログラム	2.6　カリキュラム構造、構成と教育期間
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
今後、講座間での連携を強化し、水平的統合をさらに促進していくことが望まれる。学年をまたいでの垂直的統合の教育は不十分で改善が期待される。 今後、学修者の学修意欲を促進しより効果的な学修を促す目的で、科目や講座間での連携を強化し、垂直的統合を促進していくことが望まれる。	
現在の状況	
１．集中講義形式から帯講義形式にすることで科目間の連携・水平的統合の強化を目的とし、新カリキュラムでは以下のとおり改訂した。 ・臨床医学 1～4 を改訂し、前期 A・B、後期 A・B とする。 ・水平的統合を図るため、生理学と解剖学（肉眼解剖学・神経解剖学）を同時期開催とした。 ・「生物学演習」、「生物学実験」、「化学実験」は統合して一つの科目として統合。 ・「基礎遺伝学」は現 3 年次科目「遺伝医学」と統合して「遺伝学」として統合。 ・「神経生理学」「応用生理学」を統合した。 ・「実習前集中講義」「実習間集中講義」を新設。 ２．垂直的統合の強化を目的とし、以下のとおり改訂した。	

・令和元年度から、講義内容に医療政策や、医療の質の改善に関する項目を加えた。
・臨床実習１の間に臨床実習達成演習を新設し、基礎を再演習する機会を設け、垂直的統合を図った。
・医療安全、人間理解、人との関わり方を重視した学年縦断科目「医系の人間学」を新設する。
・医系の人間学は１年から３年の連続した講義であり、臨床系教員も早期から担当し垂直的統合を図り、態度面の評価を学年を縦断して行う。この授業内で扱うユマニチュードは他大学での単発的な講義とは異なり、本学では複数回、複数の学年で実施する。

今後の計画

令和２年度から新カリキュラムが実施される。新しいカリキュラムで上記の統合がどのように機能するか、カリキュラム評価委員会、IR 室等で評価し、さらにカリキュラム検討委員会にて検討することによって、いわゆる PDCA サイクルを回す改善を図っていく。

現在の状況を示す根拠資料

資料2-1　カリキュラムマップ
資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回）
資料2-27　2019年度カリキュラム評価委員会議事要旨（全2回）

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	**2.7　プログラム管理**

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための示唆

カリキュラム検討委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

現在の状況

カリキュラム検討委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を選任することが議論されているが、現時点では含まれていない。

今後の計画

外部委員の候補者を選定し、検討する。

現在の状況を示す根拠資料

資料2-28　2019年度カリキュラム検討委員会名簿

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	**2.8　臨床実践と医療制度の連携**

質的向上のための水準　判定：適合

改善のための示唆

臨床実習協力施設からの意見を具体的なカリキュラム改革に活かすことが望まれる。

現在の状況

一年に一度臨床実習協力施設との懇談会を行い、意見交換の場を設け臨床実習カリキュラムについての問題点を共有し、改善策を話し合っている。今回「懇談会」の名称を「連絡会」と改め、施設間の情報共有だけでなく、実習に関する FD

を実施し、新たなカリキュラム改善に生かしていくことにした。具体的には施設からの要望に従って評価方法に関して情報を共有し、それぞれの病院の研修カリキュラムの改善に生かしていただくこととした。このほかこれまでと同様、他施設での診療参加型臨床実習を参考にして、自身の施設での実習プログラムの見直しの機会となっている。一方、臨床実習協力施設からの意見は医学科教務部会やカリキュラム検討委員会にも報告されている。
今後の計画
今後も連絡会の内容を充実させ、施設からの要望を教務部会、カリキュラム検討委員会に提示し、カリキュラム構成に反映させる。
現在の状況を示す根拠資料
資料 2-23　2019 年度臨床実習協力施設連絡会次第

３.学生の評価

改善した項目

３．　学生の評価	**3.1　評価方法**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
評価基準が科目ごとに決められており、その基準も必ずしも明確ではない。カリキュラム全体として評価の在り方を検討すべきである。	
改善状況	
群馬大学医学科・大学院医学系研究科には共通の人材育成の理念がある：医の科学、倫理、技能の探求とそれらの統合による医学の研究と教育の推進、並びに医学と医療をリードする人材の育成。この理念に則り、医学部医学科の目的に沿った人材育成を目指した評価を行っている。しかし、これは理念的な評価の原理であり、より具体的な原理を示す必要があるため、カリキュラム検討委員会が検討を行ってきた。それを令和 2 年度から始まる新カリキュラムに反映できるように準備を行っている。全学的組織として教養教育改革 WG を立ち上げ、教養教育の評価基準について検討を開始している。	
今後の計画	
教養教育における学生評価基準を設定し、順次専門教育に拡充していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-1　教養教育改革WG　次第・名簿	

３．　学生の評価	**3.1　評価方法**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
評価基準が科目ごとに決められており、その基準も必ずしも明確ではない。カリキュラム全体として評価の在り方を検討すべきである。	
改善状況	
医学生として求められる資質・適性・能力についての評価の充実を図るため、カリキュラム検討委員会及び教務部会において進級判定の見直しを行った。また、資質・適性・能力の評価に用いる指標について検討を進めている。	
今後の計画	

医学生として求められる資質・適性・能力の評価に用いる指標を策定し、令和2年度より運用を開始する。
改善状況を示す根拠資料
資料3-2　医学部医学科の進級に関する申合せ事項（2020年度）

３．　学生の評価	**3.1　評価方法**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
評価が外部の専門家によって吟味されるべきである。	
改善状況	
評価が外部の専門家によって吟味されることがなかった。これを改善するために令和 2 年 2 月の医学科教務部会において、成績評価確認申請に関する申合せに、学生評価に対する外部の専門家による検証を加える仕組みが審議され、同年2月 20 日の医学科会議で承認された。これにより、評価が外部の専門家によって検証される仕組みを導入することができた。令和2年度前期の成績開示より運用を開始する。	
今後の計画	
改正された成績評価確認申請に関する申合せは令和2年4月1日から施行されるため、新年度に入り学生にはメーリングリストにより周知を図る。また、履修手引への掲載等により学生及び教員への周知を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-3　成績評価確認申請に関する申合せ 資料3-4　成績評価の確認について（学生への周知文書）	

３．　学生の評価	**3.1　評価方法**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
評価の透明性、公平性を高めるために、外部評価者の活用を検討することが望まれる。	
改善状況	
学生評価が外部の専門家によって吟味されることがなかった。これを改善するために令和2年2月の医学科教務部会において、成績評価確認申請に関する申合せに、学生評価に対する外部の専門家による検証を加える仕組みが審議され、同年 2 月 20 日の医学科会議で承認された。これにより、外部評価者を活用する仕組みを導入することができた。令和2年度前期の成績開示より運用を開始する。	
今後の計画	
改正された成績評価確認申請に関する申合せは令和2年4月1日から施行されるため、新年度に入り学生にはメーリングリストにより周知を図る。また、履修手引への掲載等により学生及び教員への周知を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-3　成績評価確認申請に関する申合せ 資料3-4　成績評価の確認について（学生への周知文書）	

３．学生の評価	3.1　評価方法
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習ポートフォリオは、学生が経験したことを学生自身が省察できるよう活用することが望まれる。	
改善状況	
学生が、指導医及び患者からの形成的な評価を受けて改善点を確認し、次からの実習に臨めるよう有効に活用するために、指導医からのフィードバック医学生に対する評価表、医学生に対する評価表（患者から）をポートフォリオに加えるよう指導している。	
今後の計画	
医学科科目「医療の質と安全」において、臨床実習ポートフォリオの内容について解説する時間を設けるなど、学生への周知を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-5　臨床実習ポートフォリオ	

３．　学生の評価	3.2　評価と学習の関連
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
卒業時までに設定した学修成果の到達を確実に評価すべきである。	
改善状況	
臨床実習で身に付けた技能を臨床実習終了後 OSCE において適切に評価するために OSCE 運営委委員会において臨床実習終了後 OSCE の課題作成を実施した。	
今後の計画	
臨床実習終了後 OSCE において評価する技能の幅を広げることを念頭に OSCE 運営委員会で課題を作成した。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-6　群馬大学医学部医学科OSCE運営委員会内規	

４.学生

改善した項目

４．学生	4.3　学生のカウンセリングと支援
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
学修上の問題だけでなく、学生個人の問題に対応する制度を作り、学生一人ずつの成長を担保していくべきである。	
改善状況	
半期ごとに行われる総合認定会議において、成績だけでなく学生個人の問題についても共有している。共有した情報を継続的な学生指導につなげるため、当該学期の科目担当者だけでなく次学期の科目担当者も総合認定会議に同席するように変更した。	

学生のカウンセリングについては、教員評価の医学部独自項目とし、より積極的に支援することとした。 総合認定会議、CBT や OSCE 終了後に、成績不良者との面談と指導を行うこととした。
今後の計画
総合認定会議を継続して開催し、科目担当者が連携して学生を支援できるよう情報を共有していく。また、これらの情報を担任チューターにフィードバックする仕組みを構築していく。 チューター教員による地域医療枠学生への支援の強化を行う。
改善状況を示す根拠資料
資料4-1　2019年度後期総合認定会議の開催について 資料4-2　H30教員評価基準 資料4-3　2019年度第13回医学科教務部会議事要旨

４．学生	**4.4　学生の参加**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラムを管理する委員会活動に、どのように学生が参画するのか検討すべきである。	
改善状況	
教育プログラムを管理する教務委員会では、正式な委員としての学生の参加はなされていないが、医学科教務部会のもとに発足した臨床実習改善 WG のメンバーには学生が参加し議論に加わることになった。	
今後の計画	
教育プログラムの策定及び評価のための委員会には学生が正式な委員として参加している。教育プログラムを管理する教務委員会において個別の課題に対応するためのワーキンググループが発足する場合には、今後も学生の参加がなされるように留意していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料4-4　2019年度教務部会臨床実習改善WG名簿	

５.教員

改善した項目

５．教員	**5.1　募集と選抜方法**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
医療事故を受け医療の質・安全学講座を新設しているが、教員を早急に配置し実質的な活動を行うべきである。	
現在の状況	
・平成 29 年 11 月 1 日付けで、医療の質・安全学講座に、教授が着任した。現在の講座の教員体制は資料 5-1 のとおりである。 ・また、現在の当該講座の担当授業科目・職員研修等の開催状況は各資料に示すとおりであり、活発な活動を開始した。平成 30 年度から新たに 4 年次科目「チ	

ームスキル演習」を開講し、「チームワーク実習」との選択必修科目とすることで、医療安全について学ぶ機会を拡充した。
・令和元年度から、医学科学生の医療安全に関する知識向上を目的に、医学科学生による説明同意文書書式の改訂に関する臨床実習が開始した。

今後の計画

平成 30 年度から、開始された活動を定着させるとともに、令和２年度以降も、大学院教育に繋がる研究活動へと展開する予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 5-1　医療の質・安全管理講座の教員体制と沿革
資料 5-2　医療の質・安全管理講座教員担当の授業科目
資料 5-3　令和元年度医療安全及び感染対策に関する研修一覧
資料 5-4　説明同意文書に関するアンケート調査

５．教員	**5.2　教員の能力開発に関する方針**

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

・個々の教員の教育・研究・診療のエフォート率を医学部が管理し、教員評価に利用すべきである。
・個々の教員がカリキュラム全体像を理解することを促進すべきである。そのためにも FD の活動を拡充すべきである。

現在の状況

・教員評価は、大学全体で実施している。平成 28 年度から、実施頻度を 3 年毎から 1 年毎に変更した。この評価の各領域（教育、研究、社会貢献、管理運営）について、学部長が「重み付け」を設定してエフォートの管理をし、各教員が選択することとしている。学部長は、教員評価を実施し、評価表（個人目標・エフォート設定等）の作成及び期首面談を行っており、必要に応じ改善指示を行っている。
・令和元年度に、教員評価の見直しがあり、全学共通の評価項目として従来の FD への参加のほか、教育方法の工夫、学生による授業評価等が追加された。また、医学系研究科・病院独自の「教員評価項目」により、令和 2 年度から臨床実習への参画、学習上のカウンセリングなど更に追加する。
・教育法やカリキュラムに関する FD を全学部教員対象に開催した。医学科教員を対象としても毎年 1 回開催していたが、平成 29 年度以降は回数を増やして実施している。

今後の計画

各教員の重み付けの設定の専門領域別特性などを解析し、教育担当者の実質的配置状況と教育分担の適正化に繋げる予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 5-5　国立大学法人群馬大学教員業績評価実施要項
資料 5-6　医学系研究科と附属病院の教員評価項目
資料 5-7　教員評価基準（重み付け関係）
資料 5-8　教員評価書（入力画面）
資料 5-9　第 11 回全学 FD 連続講演会「大学教育のグランドデザイン」のチラシ
資料 5-10　2016 年度以降の医学部医学科 FD 実施状況
資料 5-11　令和元年度医学教育教授法 FD の開催について

５． 教員	5.2 教員の能力開発に関する方針
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための助言	
教員の教育負担の増加に対し、更なる対策が望まれる。	
現在の状況	
・会議の整理などを通じ拘束時間の軽減を図っている。 ・医師事務補助者等の採用を開始し、臨床系教員の負担軽減、業務の効率化に繋げている。 ・地域連携推進による外来患者数の圧縮などを通じて臨床系教員の教育に当てられる時間の確保を図っている。 ・現在、特定行為看護師研修の研修機関の指定のための準備を進めている。これは特定行為研修を修了した看護師への臨床業務のタスクシフトにより、救急、外科、集中治療、麻酔系の臨床教員の教育に当てられる時間の確保を図ることを目的とする。 ・組織の見直しにより、講座・分野の再編を行い、新たに消化器・肝臓内科学分野及び循環器外科学分野の教授ポストを増員した。それぞれの分野には平成 30 年 1 月、平成 30 年 3 月に教授が着任し、循環器外科学分野では教授着任後、スタッフ体制を拡充し、令和 2 年 3 月現在、4 名のスタッフである。今後、引き続き体制の整備を行う。	
今後の計画	
教員枠の増員を、大学本部に継続的に要望し、増大した業務に対応した人員を確保するべく折衝を続けていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 5-12　会議の効率化について 資料 5-13　医師事務補助者の導入状況 資料 5-14　新設した臨床系講座（分野）に着任した教授 資料 5-15　循環器外科スタッフ名簿 資料 5-16　外来患者数推移グラフ 資料 5-17　ポスター（「かかりつけ医を持ちましょう」） 資料 5-18　地域医療研究・教育センター組織図	

６.教育資源

改善した項目

６．教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生用ロッカー、高学年用の自習室や臨床実習期間中の学生専用の学修スペースを確保すべきである。	
改善状況	
医学部のある昭和キャンパスの自習室に関して利用を希望する学生全員分の確保に至っていないため、令和 2 年度、さらに 6 席を増設する予定である。	
今後の計画	

学生用ロッカー、高学年用の自習室については学生からの要望を踏まえ、必要に応じてさらに検討を行う。
改善状況を示す根拠資料
資料6-1　自習室一覧（昭和キャンパス）

６．教育資源	**6.2　臨床トレーニングの資源**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
臨床実習ポートフォリオのデータを用いた「患者数と疾患分類」の検証を早急に行うべきである(疾患分類自体に関する妥当性の検討を含む)	
現在の状況	
学生が臨床実習中に経験した患者数と疾患分類について、医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）の 37 の主要症候の経験・臨床推論の枠組みを利用することをカリキュラム評価委員会で決定した。これに合わせてポートフォリオの経験症例の書式の改訂を行い、学生が臨床実習中に経験した患者数と疾患分類について、集計・検証を行っている。	
今後の計画	
学生が臨床実習中に経験した患者数と疾患分類について、今後も集計・検証を行い、検証結果に基づき、学外実習協力施設と連携して学生の経験が 37 の主要症候を網羅できるよう努める。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料6-2　経験症例一覧 資料6-3　H30-31臨床実習（必修）経験症候集計	

受審後に医学教育分野別評価日本版に新たに加わった項目

６．教育資源	**6.2　臨床トレーニングの資源**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
臨床実習ポートフォリオのデータや学生からの実習評価等の活用により、「学外教育病院・診療所などの臨床トレーニング用施設の評価、整備、改善」が継続的に実施されることが望まれる。	
現在の状況	
臨床実習における経験症例の把握と検証のため、ポートフォリオの経験症例書式の改訂を行い平成 30 年度 4 年生から運用を開始した。 また、学生による実習施設・診療科に対する評価を収集しており、臨床実習協力施設懇談会の際にフィードバックを行っている。令和元年度には、学生からの意見や臨床実習運営委員会での要望に基づき、また授業で使用するため、顕微鏡実習室へノート PC140 台と顕微鏡 5 台、スキルラボセンターへ呼吸音聴診シミュレーター1 台、情報処理演習室 AB の音響設備を追加購入した。	
今後の計画	
令和 2 年度の 5 年生より新しい経験症例書式を学外施設における臨床実習（選択実習）にも導入予定である。集計された経験可能症例の結果を、臨床実習協力施設懇談会の際に学外実習協力施設に提供し、学生が 37 の主要症候を網羅できるように呼びかける予定である。	

根拠資料
資料6-2　経験症例一覧 資料6-4　2019年度購入実績

６．教育資源	6.3　情報通信技術
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・診療参加型臨床実習を充実させるために、全学生に PHS を携帯させるべきである。 ・臨床実習中の学生に対して、十分な数の患者情報端末を確保するべきである。	
現在の状況	
・令和元年 11 月から臨床実習用として、診療科と実習学生における連絡に利用するため、携帯電話合計 70 台をタームごとに実習学生へ貸与している。 ・現在、学生優先の患者情報端末を随時各診療科へ設置し試用を開始している。令和 2 年度から計 82 台の端末を本格稼働させる予定である。	
今後の計画	
・今後も診療参加型臨床実習を充実させるために学生の意見を聞きながら改善に取り組んでいく。 ・学生優先の患者情報端末について稼働後も学生の意見を聞きながら改善に取り組んでいく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料6-5　臨床実習用携帯電話マニュアル 資料6-6　臨床実習学生用携帯電話配布一覧 資料6-7　2019-2020臨床実習から適用する新しい提出物管理の変更点 資料6-8　学生用端末設置場所	

６．教育資源	6.3　情報通信技術
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
診療参加型臨床実習の充実のために、臨床実習中の学生がカルテ記載について効率的に学修できるような環境整備が望まれる。	
現在の状況	
学生優先の患者情報端末を随時各診療科へ設置し試用を開始しており、令和 2 年度から計 82 台の端末を本格稼働させる予定である。	
今後の計画	
学生優先の患者情報端末について稼働後も学生の意見を聞きながら改善に取り組んでいく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料6-7　2019-2020臨床実習から適用する新しい提出物管理の変更点 資料6-8　学生用端末設置場所	

７．プログラム評価

改善した項目

７．プログラム評価	７.１　プログラムのモニタと評価

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

　カリキュラム評価委員会及びカリキュラム検討委員会の活動を早急に開始し、教育プロセスと学習成果を定期的にモニタリングし、評価結果をカリキュラムに確実に反映させるシステムを実働させるべきである。

改善状況

　カリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会の稼働を継続させ、評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も活動を継続して行った。教務部会と各委員会の役割分担は未だ曖昧ではあるが、整理されつつある。

今後の計画

　カリキュラム検討委員会において現カリキュラムと医学教育コアカリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認結果に基づいてカリキュラム改変を令和 2 年度入学生から行った。

　CBT 合格基準の引き上げによる学習成果の変化を検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　群馬大学医学部医学科カリキュラム評価委員会内規
資料7-2　2019年度カリキュラム評価委員会名簿
資料2-27　2019年度カリキュラム評価委員会議事要録（全2回）
資料7-3　群馬大学医学部医学科カリキュラム検討委員会内規
資料2-28　2019年度カリキュラム検討委員会名簿
資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回）
資料7-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規程
資料7-5　医学部IR室構成員名簿
資料7-6　令和元年度医学部IR室会議次第及び議事要旨（全2回）
資料1-2　カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの照合調査依頼
資料7-7　2020年度新カリキュラムについて（第1400回医学科会議資料）
資料7-8　CBT合格基準値の検討について（第1383回・第1385回医学科会議資料）

７．プログラム評価	７.１　プログラムのモニタと評価

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための示唆

　カリキュラム評価委員会及びカリキュラム検討委員会の活動を早急に開始し、教育活動、カリキュラムの構成要素、長期間の学習成果について、包括的に評価することが期待される。

改善状況

　カリキュラム検討委員会において現カリキュラムと医学教育コアカリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認結果に基づいてカリキュラム改変を令和2年度入学生から行った。IR室が成績データの分析を開始し、現有データの問題点を整理した。各科目の成績データを整理した。CBTの成績が低下傾向にあることを認識し、成績不良者に再試験を課すことが必要と判断し、合格基準を引き上げた。

今後の計画

カリキュラム検討委員会において現カリキュラムと医学教育コアカリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認結果に基づいてカリキュラム改変を令和 2 年度入学生から行った。CBT 合格基準の引き上げによる学習成果の変化を検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　群馬大学医学部医学科カリキュラム評価委員会内規
資料7-2　2019年度カリキュラム評価委員会名簿
資料2-27　2019年度カリキュラム評価委員会議事要旨（全2回）
資料7-3　群馬大学医学部医学科カリキュラム検討委員会内規
資料2-28　2019年度カリキュラム検討委員会名簿
資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回）
資料7-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規程
資料7-5　医学部IR室構成員名簿
資料7-6　令和元年度医学部IR室会議次第及び議事要旨（全2回）
資料1-2　カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの照合調査依頼
資料7-8　CBT合格基準値の検討について（第1383回・第1385回医学科会議資料）

７．プログラム評価	**７．２　教員と学生からのフィードバック**

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

カリキュラム評価委員会、IR 部門及びカリキュラム検討委員会を整備し、大学が主体となって教員及び学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し対応すべきである。

改善状況

学生に対する卒業時アンケートを大学として毎年実施継続している。2年前のアンケート実施時は回答時間が不十分であったので、前年からアンケートの実施時期を変更した結果、回収率が向上した。集計結果を教授会で報告し、フィードバックを求めた。

カリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会に参加している学生代表委員からの意見を聴取し検討に反映させている。

今後の計画

学生アンケートを継続し結果の解析を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　群馬大学医学部医学科カリキュラム評価委員会内規
資料7-2　2019年度カリキュラム評価委員会名簿
資料2-27　2019年度カリキュラム評価委員会議事要旨（全2回）
資料7-3　群馬大学医学部医学科カリキュラム検討委員会内規
資料2-28　2019年度カリキュラム検討委員会名簿
資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回）
資料7-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規程
資料7-5　医学部IR室構成員名簿
資料7-6　令和元年度医学部IR室会議次第及び議事要旨（全2回）
資料7-9　令和元年度医学科卒業時アンケート用紙及び結果
資料7-10　令和元年度学友会との懇談会資料（全2回）
資料7-11　令和元年度学友会との懇談会質疑応答内容（全2回）

７．プログラム評価	７．２　教員と学生からのフィードバック

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための示唆

カリキュラム評価委員会及びカリキュラム検討委員会、IR 部門を整備し PDCA を実行し、教員及び学生からの系統的なフィードバック結果を利用してプログラム開発につなげることが望まれる。

改善状況

学生に対する卒業時アンケートを大学として毎年実施することを決定した。2年前のアンケート実施時は回答時間が不十分であったので、前年からアンケートの実施時期を変更した結果、回収率が向上した。集計結果を教授会で報告し、フィードバックを求めた。カリキュラム検討委員会並びにカリキュラム評価委員会に参加している学生代表委員からの意見を聴取し検討に反映させている。

今後の計画

学生アンケートを継続し結果の解析を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

資料7-9　令和元年度医学科卒業時アンケート用紙及び結果
資料7-10　令和元年度学友会との懇談会資料（全2回）
資料7-11　令和元年度学友会との懇談会質疑応答内容（全2回）
資料7-12　2019年度卒業生アンケートについて（第1403回医学科会議資料）

７．プログラム評価	７．３　学生と卒業生の実績

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

卒業後の活動に関する系統的な情報を収集し、使命や学習成果との関連性を分析する仕組みを整備すべきである。
医学部医学科のアウトカムに沿ったカリキュラム、資源の提供状況の分析を系統的に行うべきである。

改善状況

在学生については、カリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会を稼働させ、評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室の活動を継続して行った。

カリキュラム検討委員会において現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認を行った。地域医療枠学生の医師臨床研修を受けた施設調査、群馬大学出身者の群馬県内専攻医プログラムでの採用状況についての調査を行った。

今後の計画

2017 年度より卒業生の初期研修先に関する情報の系統的な収集を開始し、分析方法を検討中である。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　群馬大学医学部医学科カリキュラム評価委員会内規
資料7-2　2019年度カリキュラム評価委員会名簿
資料2-27　2019年度カリキュラム評価委員会議事要旨（全2回）

資料7-3　群馬大学医学部医学科カリキュラム検討委員会内規 資料2-28　2019年度カリキュラム検討委員会名簿 資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回） 資料7-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規程 資料7-5　医学部IR室構成員名簿 資料7-6　令和元年度医学部IR室会議次第及び議事要旨（全2回） 資料1-2　カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの照合調査依頼 資料7-8　CBT合格基準値の検討について（第1383回・第1385回医学科会議資料）

７．プログラム評価	**７．３　学生と卒業生の実績**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
系統的なフィードバックについて、カリキュラム評価委員会及びカリキュラム検討委員会、IR 部門を稼働させ、学生と卒業生の実績を分析し、入学者の選抜、カリキュラム立案へのフィードバックを行うことが期待される。	
改善状況	
在学生については、カリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会を稼働させ、評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室の活動を継続して行った。 カリキュラム検討委員会において現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認を行った。地域医療枠学生の医師臨床研修を受けた施設調査と群馬大学出身者の群馬県内専攻医プログラムでの採用状況についての調査を行った。	
今後の計画	
2017 年度より卒業生の初期研修先に関する情報の系統的な収集を開始し、分析方法を検討中である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料7-1　群馬大学医学部医学科カリキュラム評価委員会内規 資料7-2　2019年度カリキュラム評価委員会名簿 資料2-27　2019年度カリキュラム評価委員会議事要旨（全2回） 資料7-3　群馬大学医学部医学科カリキュラム検討委員会内規 資料2-28　2019年度カリキュラム検討委員会名簿 資料2-10　2019年度カリキュラム検討委員会議事要旨（全9回） 資料7-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規程 資料7-5　医学部IR室構成員名簿 資料7-6　令和元年度医学部IR室会議次第及び議事要旨（全2回） 資料1-2　カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの照合調査依頼 資料7-8　CBT合格基準値の検討について（第1383回・第1385回医学科会議資料）	

７．プログラム評価	**７．４　教育の関係者の関与**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
早急にカリキュラム評価委員会を稼働させ、その評価結果を主な教育の関係者に提供すべきである。	

改善状況
外部の教育専門家も委員に加わるカリキュラム評価委員会を継続して開催した。委員会の議事録は教授会で報告されている。
今後の計画
カリキュラム評価委員会で外部の教育専門家にも意見を求め、委員会の結果の提供を継続していく。
改善状況を示す根拠資料
資料7-2　2019年度カリキュラム評価委員会名簿 資料2-27　2019年度カリキュラム評価委員会議事要旨（全2回） 資料7-13　カリキュラム評価委員会について（第1394回・第1403回医学科会議資料）

７．プログラム評価	**７．４　教育の関係者の関与**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
プログラムの評価の結果の透明性を確保することが期待される。 カリキュラムに対するフィードバックを系統的に得る仕組みを整えることが期待される。	
改善状況	
外部の教育専門家も委員に加わるカリキュラム評価委員会を継続して開催した。委員会の議事録は教授会で報告されている。	
今後の計画	
カリキュラム評価委員会で外部の教育専門家にも意見を求め、委員会の結果の提供を継続していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料7-2　2019年度カリキュラム評価委員会名簿 資料2-27　2019年度カリキュラム評価委員会議事要旨（全2回） 資料7-13　カリキュラム評価委員会について（第1394回・第1403回医学科会議資料）	

８.統轄および管理運営

改善した項目

８．　統轄および管理運営	**8.1　統轄**
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
新設されたカリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会、予定されているIR部門において、既存の委員会との役割分担を明確にし、規定すべきである。	
改善状況	
カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会の規程に加え、IR室においてもIR室規程を制定し、役割分担を明確にした。	
今後の計画	
各委員会を運営しながら、必要に応じて役割分担の見直しを行う。	

改善状況を示す根拠資料
資料7-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規程 資料8-1　医学科における教育のPDCA図

８．　統轄および管理運営	8.1　統轄
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
より多くの教員からの意見を教育プログラムの改善にかかる委員会に反映させることが望まれる。	
現在の状況	
令和2年度より導入予定の新カリキュラムの策定にあたりより多くの教員から意見を得るため、2019年度にはカリキュラム検討委員会に学年別WGを設置した。学年別 WG には、当該学年に開講される全ての科目の科目担当者が加わり、教育内容の整理や水平統合等について意見交換を行い、教育プログラム案を作成した。各 WG で集約した意見及び教育プログラム案はカリキュラム検討委員会に提出され、新カリキュラムに反映されている。	
今後の計画	
令和2年度入学生から順次導入予定の新カリキュラム策定に向けて、引き続き教員の意見を集めながら教育プログラムの改善を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8-2　カリキュラム検討委員会　学年別WG担当者一覧	

８．　統轄および管理運営	8.2　教学のリーダーシップ
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
教学のリーダーシップにおいて、評価基準や方法を定めて定期的に評価を実施することが望まれる。	
現在の状況	
教学を含む大学全体のリーダーである学長については、学長選考会議において、原則として毎年度、業務の執行状況に関し、評価を実施している。また、医学部長及び大学院医学系研究科長は、群馬大学学部長等の選考の取扱い（学長裁定）に基づき、任期2年とし、学部等から推薦された学部長等適任者3名から役員会の議を経て学長が指名する体制としている。現在の学長、医学部長及び大学院医学系研究科長は平成31年4月から令和3年3月31日までの任期となっている。	
今後の計画	
学長任期4年（再任時は2年の任期）の期間中は、学長選考会議において、原則として毎年度学長の業務の執行状況に関し、評価する体制を継続している。また、学部等において教学のリーダーシップを発揮できる医学部長及び大学院医学系研究科長を推薦された学部長等適任者3名のうちから、役員会の議を経て学長が指名（任期2年・再任可）する体制を継続している。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8-3　国立大学法人群馬大学学長選考規程	

資料8-4　群馬大学学部長等選考の取扱いについて（学長裁定） 資料8-5　群馬大学医学部長適任者選考規程 資料8-6　群馬大学医学系研究科長適任者選考規程

８．　統轄および管理運営	8.3　教育予算と資源配分
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
教育予算が教育上の要請に沿って決められていることを検証すべきである。	
改善状況	
医学部長の下に設置されている企画戦略会議において、教育に関する予算についても議論している。また、教務委員会医学科部会や学友会からの要望に基づき予算の確保が行われている。令和元年度は、診療参加型臨床実習の充実を図るため、必要な経費等について予算の執行がなされた。	
今後の計画	
企画戦略会議や教務委員会医学科部会、予算委員会等で教育上必要な事項について審議し、その要請をもとに適正な予算の配分に努める。	
改善状況を示す根拠資料	
資料8-7　群馬大学大学院医学系研究科企画戦略会議規程 資料8-8　群馬大学医学部予算委員会規程 資料8-9　群馬大学医学部予算委員会部会内規 資料6-4　2019年度購入実績	

８．　統轄および管理運営	8.3　教育予算と資源配分
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
医学の発展と社会のニーズに沿って、教育予算の配分を行うことが望まれる。	
現在の状況	
昨年度に引き続き、平成 29 年 11 月に設置した「医療の質・安全学講座」において、医療安全教育及び多職種連携教育の充実を図った。平成 31 年度は、チームスキル演習において、チームステップスを取り入れた。 また、平成 29 年 12 月に設置した「数理データ科学教育研究センター」を中心に、令和 2 年度入学生より開始するデータサイエンス科目の導入に向けた準備を行った。	
今後の計画	
引き続き、医学の発展と社会のニーズを鑑みた教育予算の配分を実施する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5-1　医療の質・安全管理講座の教員体制と沿革 資料8-10　数理データ科学教育研究センター概要 資料8-11　ぐんま数理データサイエンス教育プログラム資料	

８．　統轄および管理運営	8.4　事務と運営

基本的水準　判定：適合
改善のための助言
教育を支援する事務部門の業務の増加に対する対策を行うべきである。
改善状況
教育を支援する事務部門の業務の増加や国際化の対策として、人事異動においては即戦力となる人員を要望し、経験者採用で語学力の高い職員を 2 名配置した。
今後の計画
教学 IR の活動、臨床実習終了後 OSCE の正式実施等、教育を支援する事務部門の業務の増加や高度化に対応するため、人員配置について継続して要望していく。
改善状況を示す根拠資料
なし

９.継続的改良

改善した項目

基本的水準　判定：部分的適合
改善のための助言
IR 部門を速やかに機能させて､カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会とともに機能的運用を行うべきである。
改善状況
平成 28 年度に設置したカリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会を稼働させ、評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も平成 29 年度に設置して活動を開始した。各委員会の長が互いの委員会にオブザーバーとして参画しすることで、教学の PDCA を効果的に回すための機能的運用を図っている。
今後の計画
引き続き、カリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会、IR 室の活動を継続し、医学科教務部会と連携した機能的運用に努める。
改善状況を示す根拠資料 資料 8-1　医学科における教育の PDCA 図 資料 9-1　2019 年度医学科教務部会委員名簿 資料2-28　2019年度カリキュラム検討委員会名簿 資料7-2　2019年度カリキュラム評価委員会名簿 資料7-5　医学部IR室構成員名簿